

<R6 中之島小学校 国際科 重点目標>

英語活動を通して、コミュニケーション能力や対話力の育成を図る。

【自己評価】

	評価項目	評価基準	評価
成果	(1) いろいろな人（友達や外国の人など）とコミュニケーションを図っている。	A：肯定的評価が80%以上 B：70%以上 ○児童アンケート 「いろいろな人（友達や外国の人など）とコミュニケーションを楽しむことができた。」 ○保護者アンケート 「国際科の授業に楽しく参加することができた」	A
	(2) 国際交流会等、外国の人々と関わる活動を通して、自国や他国の文化・伝統のよさに気付いている。	A：肯定的評価が80%以上 B：70%以上 ○児童アンケート 「活動を通して、外国と日本の違いやよさを感じることができた。」 ○授業後の振り返り	A
教育活動	(1) ゲームやインタビューなど、ねらいに応じたコミュニケーション活動を取り入れることができたか。	A：毎回実施した。 B：2回に1回以上実施した。	A
	(2) 歴史や文化など、各国の特徴的な内容を取り上げ、外国や日本の違い、よさを感じさせることができた。	A：各学期に1回以上実施した。 B：各学期に1回以上実施できなかった。	A
運営活動	(1) ALTとの打合せの時間を確保するために、事前に各担任と確認し、時間の調整を行う。	A：80%以上ALTと直接打合せすることができた。 B：79%以下しかできなかった。	A
	(2) 外国の人と交流する機会を設ける。	A：各学年、年間1回以上、交流の機会を設けることができた。B：一部の学年しかできなかった。	A

【学校関係者評価】評価委員6人

評価項目	評価基準	評価
中之島小学校の国際科の取組は、重点目標を達成している	A：肯定的評価が5人以上 B：4人以下	A

【自己評価 考察】

- ・昨年度に引き続き A が多く、重点目標をおおむね達成していた。
- ・児童アンケートの肯定的評価が 1,2 学期を平均して 81.6%であった。英語を介して、友達や外国の人とのコミュニケーションをとることを楽しむことができたようである。
- ・日々の授業では、ALT と楽しい雰囲気で行進することができた。また、ゲームやインタビューをペアで行ったり、児童をいくつかのグループに分けて行ったりして、楽しみながら学習をしていた。
- ・国際理解教育については、昨年度同様、浦佐の国際大学の留学生との交流を通して、その国の食べ物、気候、文化などを教えてもらえることができた。児童からは南魚沼市や中之島小学校の自然や、自分の好きな食べ物について英語で留学生に話をしていた。とても有意義な時間となった。
- ・ALT との打ち合わせについては、昨年度同様、全時間、事前に行うことができた。そのため、活動が停滞することなく授業を進めることができた。ALT の役割、担任の役割をきちんと事前に打ち合わせをすることの重要性を再認識した。今後も時間を捻出し、打ち合わせを行いたい。
- ・昨年度同様、全ての学年で、3 学期に外国の方と交流することができた。今後も全学年で行えるように計画をしていきたい。



【学校関係者評価 結果】評価委員 6 人

評価項目	評価基準	評価	評価
中之島小学校の国際科の取組は、重点目標を達成している	A：肯定的評価が 5 人以上 B：4 人以下	6 人	A

【学校関係者評価 考察】

- ・コロナ禍が過ぎ、南魚沼市のスキー場ではインバウンドの影響で英語や中国語が飛び交っている。校区にある舞子スノーリゾートも同様である。その現状を見ると、当校のある中之島地区は今後、外国の方々とのコミュニケーションを取ることの重要性が高まっていく。小学校段階で、もっと外国語に親しみ、外国の方とのコミュニケーションが楽しい、という子どもを育てていくことが重要である。